

地震工学委員会

平成 26 年度 第 2 回（通算第 38 回）定例委員総会 議事録（案）

I 日時：平成 26 年 12 月 10 日(火)15:00~17:00

II 場所：土木学会講堂

III 委員会成立の確認

委員総数 120 名に対して、1/2 以上に当たる 80 名(委任状による参加 29 名を含む)が参加しており、本総会の成立が確認された。開会に先立ち、今年 5 月に亡くなられた藤間委員（防衛大学校）に対する黙祷が行われた。

IV 配布資料

- 資料番号なし 議事次第
- 資料 38-1 平成 26 年度 第 1 回（通算第 37 回）委員総会 議事録（案）
- 資料 38-2 地震工学委員会次期（平成 27 年度~28 年度）委員長選挙
- 資料 38-3 平成 26 年度 小委員会活動中間報告
- 資料 38-3-2 性能設計体系における土木構造物の耐震設計事例集
- 資料 38-4 平成 26 年度 活動予算執行状況報告
- 資料 38-5 研究小委員会の継続・新規設置について
- 資料 38-6 地震工学委員会規則の変更（案）
- 資料 38-7 平成 25 年度 調査研究委員会活動度評価結果
- 資料 38-8 第 34 回地震工学研究発表会・地震工学論文集について
- 資料 38-9 ISO23469 について
- 資料 38-10 1995 年兵庫県南部地震 20 周年講演会
- 資料 38-11 長野県北部の地震の被害調査・研究費用の助成について
- 資料 38-12 平成 27 年度 事業計画
- 資料 38-13 平成 27 年度 重点研究課題助成の募集
- 資料 38-14 その他報告事項

V 議事

1. 開会挨拶(小長井委員長)

小長井委員長から、開会の挨拶が行われた。

2. 総会議長選出(池田幹事長)

委員からの総会議長への立候補がなかったため、酒井委員(法政大学)が議長に推薦され、満場の拍手をもって承認された。

3. 前回議事録(案)の確認(池田幹事長)

資料 38-1 に基づき前回議事録案の説明がなされた。特に異存なく了承されたため、(案)をとって正式版とする。

4. 平成 27・28 年度委員長の選出(池田幹事長)

資料 38-2 に基づき被選挙人が紹介され、地震工学委員会規則に従って投票が行われた。投票の結果、澤田副委員長が次期委員長に選出された。

5. 審議事項等

(1) 平成 26 年度 小委員会活動中間報告

1) 耐震基準小委員会(野津幹事)

性能設計事例集作成 WG、危機耐性 WG の二つの WG で活動を行っている。平成 26 年度は 3 回の小委員会活動を行った。平成 27 年度は、小委員会を 2 回程度、危機耐性 WG を 3 回程度行う計画である。小委員会報告として土木学会論文集への投稿を予定している。末富幹事から性能設計体系における土木構造物の耐震設計事例集についての説明がなされた。性能設計辞令集作成 WG の報告書として HP で公開する予定である。

2) 地震防災技術普及小委員会(木全委員長)

平成 26 年度の活動として、アテネ工科大学からの国際交流「神戸学習ツアー」を実施し、土木学会誌に報告した。来年も来日の予定があるので協力をお願いしたい。実務者のための耐震設計入門セミナー(基礎編、実践編)を実施した。第 14 回地震マネジメントセミナーを、首都直下地震をテーマに、12/15 に実施予定である。東日本震災における宮城県地方被災地の現地視察会 9/18-9/19 を実

施した。特別 WG だるまの会を 7 回実施し、167 名の参加者があった。出版物として、続実務に役立つ耐震設計入門（実践編）を 10 月に出版した。

H27 年度の活動計画として、今年度と同様のイベントを開催予定である。第 17 回地震防災技術懇話会を実施予定である。懇話会ビデオの会員向け公開をする予定である。

3) 地震被害調査小委員会（高橋委員長）

地震被害の把握とアーカイブ及び関連学会との連携を行っている。

長野県北部地震の情報収集を行い、小長井委員長、池田幹事長が現地調査を行った。情報を収集して、アーカイブを行っていくので、関連する情報があれば連絡を頂きたい。小長井委員長より、社会支援部門に kml ファイルがアップされているのでリンクを張ってもらいたいとのコメントがあった。

2011 年のニュージーランド地震の被害調査報告書の作成依頼への対応を行う予定である。安田顧問から、ニュージーランドの地震について、復旧復興フェイズにおける集団移転などの情報もまとめてもらいたいとのコメントがあった。

4) 地震工学論文集編集小委員会（小野幹事長）

例年通り、地震工学研究発表会の開催と A1 特集号の編集を行っている。第 34 回地震工学研究発表会を長岡で実施し、10 月 11 日に現地見学会を行った。地震工学論文集を平成 27 年 7 月に発行予定である。平成 27 年度も例年通り、地震工学研究発表会を開催する予定。詳細は運営幹事会と検討して決めて行く。

5) 日本土木史「地震工学部門」編集小委員会（目黒委員長）

1991 年から 2010 年までの 20 年間の日本土木史を編集刊行する。2011 年の東日本大震災についても入れた内容が検討されている。現在修正作業を行っている。来年度は、微修正を行い、小委員会の活動を終える予定。

6) 地震津波複合災害の推定手法および対策研究小委員会（富田幹事長）

地震工学委員会と海岸工学委員会との合同小委員会である。海岸工学講演会前日シンポジウムを開催した。土木学会トークサロンを 12/15 に開催予定。今年度終了予定であり、小委員会の成果として Coastal Engineering Journal への特集号を予定している。

7) 石積み擁壁の耐震補強に関する研究小委員会（宮島副委員長）

5つのWGで活動している。平成27年度は小峰城あるいは金沢城の非破壊検査を行う。シンポジウムを開催する予定。

8) 性能に基づく橋梁等構造物の耐震設計法に関する研究小委員会（矢部委員長）
性能に基づく橋梁等構造物の耐震設計法に関するシンポジウムを開催した。

9) ライフラインの地震時相互関連を考慮した都市機能防護戦略に関する研究小委員会（丸山幹事長）

今年度の地震工学シンポジウムにおいて、本研究小委員会についてのオーガナイズドセッションを開催した。

10) 国際化対応小委員会（庄司幹事長）

Disaster fact sheet を発刊している。今年度はまだ投稿が無い状況である。長野北部地震の fact sheet の投稿をお願いしたい。

11) 水循環ネットワーク災害軽減対策研究小委員会（宮島委員長）

地震工学研究発表会で8編の投稿を行った。報告書を作成する予定である。課題や問題点を整理して新しい研究小委員会で引き続き検討して行きたい。

12) 東日本大震災による橋梁等の被害分析小委員会（高橋幹事長）

6回の委員会とワーキンググループでの活動を行っている。最終報告会を行う予定である。

13) 想定地震動研究開発小委員会（市村幹事長）

大規模シミュレーションが可能になりつつあるので、シミュレーション方法の詳細検討を進めているところである。報告書をまとめるための合宿を行っている。今後、報告書をまとめる予定である。

14) 突発災害時における避難誘導に関する調査研究小委員会（大野委員長）

暗闇時の避難行動への対応を検討している。公開実験を静岡県吉田町、高知県黒潮町で行っている。実験の成果を受けて、JIS Z9097 として避難誘導標識

のシステムが制定されている。4月には、山田町の大浦漁港で公開実験を行い、シンポジウムを開催する予定である。

(2) 平成 26 年度 活動予算執行状況報告 (池田幹事長)

資料 38-4 に基づいて説明がなされた。予算の執行状況について説明が行われた。予備費が 50 万円残る。

(3) 研究小委員会の継続・新規設置について

1) 東日本大震災による橋梁等の被害分析小委員会 (高橋幹事長)

中間報告会を行っている。中間報告会を受けて、新たなデータ収集や解析を行っており、最終報告書作成のために半年間の委員会活動の継続を申請する。継続が承認された。

2) 突発災害における避難誘導に関する調査研究小委員会 (大野委員長)

4月に山田町の大浦漁港で公開実験を行い、シンポジウムを開催する予定であり、1年間の継続を申請する。継続が承認された。

3) 水循環施設の合理的な災害対策研究小委員会 (宮島委員長)

前研究小委員会での検討成果を引き継ぎつつ、対策に重点を置いて小委員会を再編するために新規の小委員会として設置を希望した。小委員会の設立が承認された。

4) 小委員会設置状況について (池田幹事長)

今年度で6つの研究小委員会が終了予定であり、2つの研究小委員会が継続申請、1つの研究小委員会が新規申請している。地震工学委員会の活発な活動のため、新たな小委員会の設立についての検討をしてもらいたい。

(4) 地震工学委員会規則の変更について (池田幹事長)

資料 38-6 に基づいて、池田幹事長より運営幹事の選出方法の改定について説明がなされ、修正案のとおり承認がされた。

6. 報告事項等

(1) 平成 25 年度 調査研究委員会活動度評価結果 (池田幹事長)

資料 38-7 に基づいて、池田幹事長より説明がなされた。平成 25 年度の活動度評価は B となった。活動度を高めるため小委員会の活動を活発に行ってもらいたい。当麻委員から他の委員会の評価を合わせて示してもらいたいとの発言があり、池田幹事長から手元に資料が無いため議事録に掲載して対応するとの説明があった。小長井委員長からも小委員会の活動を活発に行ってもらいたい旨の発言があった。

H25 年度評価

- ・ A ランク : 5 委員会
- ・ B ランク : 17 委員会
- ・ C ランク : 7 委員会

(2) 第 34 回地震工学研究発表会・地震工学論文集

資料 38-8 に基づいて、小野幹事長から説明があった。今年度から若年層を対象とした優秀講演賞を試行している。現在、査読論文の査読作業を行っている。

(3) ISO23469 への対応について (池田幹事長)

資料 38-09 に基づいて、池田幹事長より ISO23469 についての説明があった。採用国が 5 カ国未満の場合は廃止が望ましいとされており、2014 年の第 2 回定期見直しでは採用国が 3 カ国のみであり、廃止が望ましいとされている。作業 WG を組織して継続に向けての活動を行う。Voter を増やすための施策の立案と実施を行う。WG は耐震技術小委員会内に設置し、他の組織との連携を模索して行く。小長井委員長から、「幅広い設計思想を包含するものとして作られている。今後継続がされる予定であり、5 年後には見直し点検があるので世界に向けての ISO 対応の戦略を考えて行く必要がある。」との補足説明があった。

(4) 1995 年兵庫県南部地震 20 周年講演会の開催について (池田幹事長)

資料 38-10 に基づいて、池田幹事長から説明が行われた。1 月 14 日に兵庫県南部地震の経験をされた先生方に当時の経験をもとに振り返る予定である。ぜひ、若手や関係者への参加を呼びかけてもらいたい。

(5) 長野県北部の地震の被害調査・研究費用の助成について

資料 38-11 に基づいて、池田幹事長より長野県北部の地震の被害調査・研究費用の助成について説明がなされた。まだ、募集しているので、関連する方の応募を募っている。

(6) 平成 27 年度事業計画（池田幹事長）

資料 38-12 に基づいて、池田幹事長より説明があった。従来通りの活動を予定している。

- 耐震設計入門セミナー（基礎編、実践編）
- 第 15 回地震災害マネジメントセミナー
- 東日本大震災における岩手県沿岸南部地方被災地の現地視察会
- 第 35 回地震工学研究発表会
- 第 18 回性能に基づく橋梁等の耐震設計に関するシンポジウム
- 第 2 回擁壁の耐震診断及び補強法に関するシンポジウム

(7) 平成 27 年度重点研究課題助成の募集

資料 38-13 に基づいて、池田幹事長より説明があった。2 月 13 日必着で公募が出ている。これまで、地震工学委員会からは、2 件のみの採択となっているので、ぜひ小委員会の活動とあわせて応募を検討いただきたい。

(8) その他報告事項

資料 38-14 に基づいて、土木学会表彰の推薦が行われた事について、池田幹事長より報告があった。功績賞は 1 月に推薦をしていく予定である。今後も、委員長経験者を功績賞に推薦して行く。国際貢献賞は、1 月 20 日に向け、選考をする計画である。

平成 27 年度以降の地震工学委員会の体制について、池田幹事長から説明がされた。

7. その他

平成 27 年度第 1 回総会を 4 月中旬に開催を予定している。

8. 議長退任

すべての議事が終了したことを確認し、酒井議長が退任された。

9. 閉会挨拶

澤田副委員長、次期委員長からの閉会挨拶が行われた。

(作成者：原田)